

第2次
みどり市観光振興計画

策定にあたって

これまで観光は、有名な文化財や自然景観を見に出かけたり、観光化された施設で買い物やグルメを楽しんだりするような「消費的」「物見遊山的」なものだととらえられてきました。そのため、観光振興をおこなう場合、どうしても有名観光地のような姿を想像し、いわゆる「観光地」だとは認識されていない地域に住む人は、「別にうちの地元には何もないから」という声も聞かれることもしばしばでした。

ひるがえって、みどり市には文化財・文化施設として「岩宿遺跡」、「富弘美術館」や「ながめ余興場」、美しい自然環境として「高津戸峡」、「鹿田山フットパス」や「草木湖」などがあります。地域の足であり、観光列車としての役割を担う「わたらせ渓谷鐵道」も大変に魅力的です。町村合併によって、市内は広域化し、各地域の多様な魅力が加わりました。

ただ、市民の多くの方は、みどり市が観光地かと問われると、自分の住む地域は観光地であるとは答えないでしょう。もしかしたら、「うちの地元には何もないから」という人もいるかもしれません。

そんなみどり市において、観光振興計画を策定するとなると一体なにが必要でしょうか。大規模な観光開発を行うような政策を立てるべきでしょうか。そうではないと考えます。

現在、観光のあり方は大きく変化しました。個人や小グループを対象に、今までよりも旅の目的や楽しみ方に多様性が生まれ、その場所でしか得られない経験や体験が重視されるようになりました。また、旅を通じて訪問した人々が、その地域の風景や人を気に入って、縁が生まれ、たびたび訪れるような状況も見られています。旅をきっかけに、移住の場や、新しいビジネスの場としての縁が生まれている地域もあります。

こうした現状をふまえ、みどり市が目指す観光振興のあり方は、これからを見据えた「みどり市民による、みどり市民とみどり市サポーターのための観光を通じたまちづくり」を目指す計画が必要であると考えます。

本観光振興計画は、みどり市民を代表する委員の皆さんによって作られたものです。委員の方々は、宿泊や物産、観光ガイド、交通など観光に携わる方々はもちろん、教育分野、農林業分野、情報分野、地域おこし協力隊の方など、多様な立場の方がご参加くださいました。そして、本委員会の副委員長を務めてくださった富所哲平さんは、吉本興業の芸人さんであり、みどり市観光大使やぐんま特使をお勤めになっています。

このようなバラエティに富んだ本観光振興計画の委員の構成は、まさに観光の幅広さを表しているだけでなく、一部の当事者だけではなしえない、みどり市が観光まちづくりを果たしてゆくための決意のあらわれであると感じました。

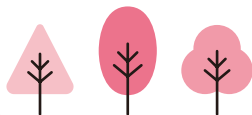
委員会では限られた時間に加え、コロナ禍でコミュニケーションがとりづらい状況などもありましたが、毎回活発な議論が行われました。一方で、もっと委員が語り合い、膝を突き合わせて話し合う時間や場があればという気持ちも残っています。そのため、本観光振興計画にもっと盛り込むべきことがあったのではないかなどのお声もあろうと思います。

しかしながら、ここに挙げたアクションプランは、これからのみどり市の5年間で、実際に取り組むべきことであると同時に、すでに動きはじめた取組や、実現に向けて実行しようとしている計画たちです。

本計画の策定は、実践のためのスタートラインです。これを機会に、行政、みどり市民、そしてみどり市サポーターとなる地域外の人々が、観光まちづくりへ参画してくださることを願い、冒頭の言葉とさせていただきますと思います。

令和5年3月

第2次みどり市観光振興計画策定委員会 委員長 片岡 美喜



第1章 計画策定について 3

1. 計画の背景	3
2. 計画の柱	3
3. 計画の位置付け	4
4. 計画の期間	4

第2章 みどり市における観光の現状と課題 5

1. みどり市の観光動向	5
2. 第1次みどり市観光振興計画の評価と総括	11
3. 観光をとりまく環境変化への対応	13

第3章 施策を達成するために 15

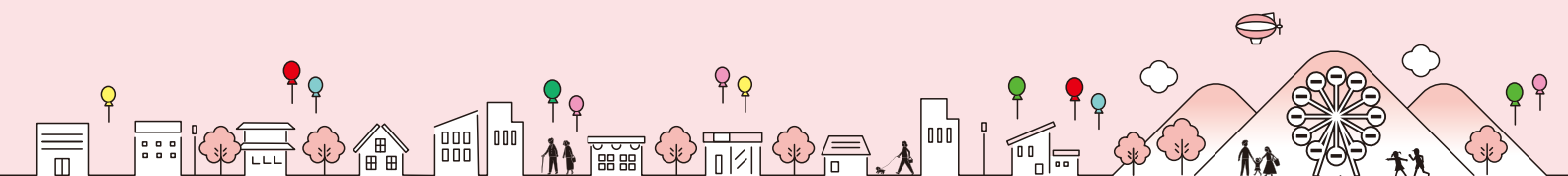
1. 計画の体系	15
2. 計画の進行管理手法	15

第4章 アクションプラン 16

①産学官連携によるまちづくり	17
②魅力ある特産品の開発	19
③観光ニーズの変化への対応強化	20
④ながめ公園の活性化	21
⑤次世代へつなぐみどり市の「まつり」	22
⑥滞在型観光の推進	23
⑦シビックプライドの醸成	25
⑧広域観光の推進	27

資料編 28

1. 策定委員会名簿	28
2. 策定の経過	28





1 計画の背景

本市では、2008年3月に策定した、みどり市総合計画の基本政策「にぎわいと活力のあるまちづくり」を実現するため、2013年7月にみどり市観光振興計画を策定し、「人と自然と文化が交差するまち～やさしさに出会うまち“みどり”の構築～」という基本理念のもと多様な施策を展開してきました。

その一方で、地域社会をとりまく社会環境の変化と、それらに伴う対応がみどり市においても求められている状況です。例えば、2015年に国連で採択され2030年までにより良い世界を目指すための国際目標であるSDGs¹や、2020年から世界的に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による旅行客の大幅減少など、観光を含めた産業のあり方は大きな転換点を迎えています。また、スマートフォンの普及率が2010年2月時点の4.4%から2021年1月時点で92.8%まで拡大（モバイル研究所「モバイル社会白書2021」より）し、インターネットやSNS²が子どもから大人まで身近なものとなるなど、本市の観光まちづくりにおいても情報や通信の急速な変化に対応しながら、実践的かつ実効性がある施策に取り組む必要があります。

このことから、2023年4月から策定するみどり市総合計画（後期基本計画）（以下「総合計画」という。）の施策を「公民連携の観光まちづくり」にシフトし、みどり市に関わる全ての人が共に地域活性化のために活動し、市内に点在する地域資源を最大限に活かした観光振興を推進するため、第2次みどり市観光振興計画を策定します。

2 計画の柱

第2次みどり市観光振興計画では、最上位計画である総合計画の目的を達成するための4つの柱を掲げ、実効性のあるアクションプランに結びつけています。

- 街道の文化を生かし、地域間の資源をつなぐ
- 観光コンテンツづくりと掘り起こし
- 持続可能な体制・仕組みづくり
- 地域の誇りを次世代につなぐ（教育と市民意識の向上）

¹ Sustainable Development Goals。2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの具体的指針のこと。

² ソーシャルネットワーキングサービス。登録された利用者同士が交流できるWebサイト上の会員制サービスのこと。

3 計画の位置付け

本計画は、総合計画における観光分野の部門計画として位置づけられており、他分野の部門計画と連携しながら総合計画を実現するためのアクションプランとして位置付けます。

また、地域の特色に着目した「東町地域ビジョン」等との相乗効果を図りながらアクションプランを実施していきます。



4 計画の期間

2023年4月から2028年3月までの5年間とします。

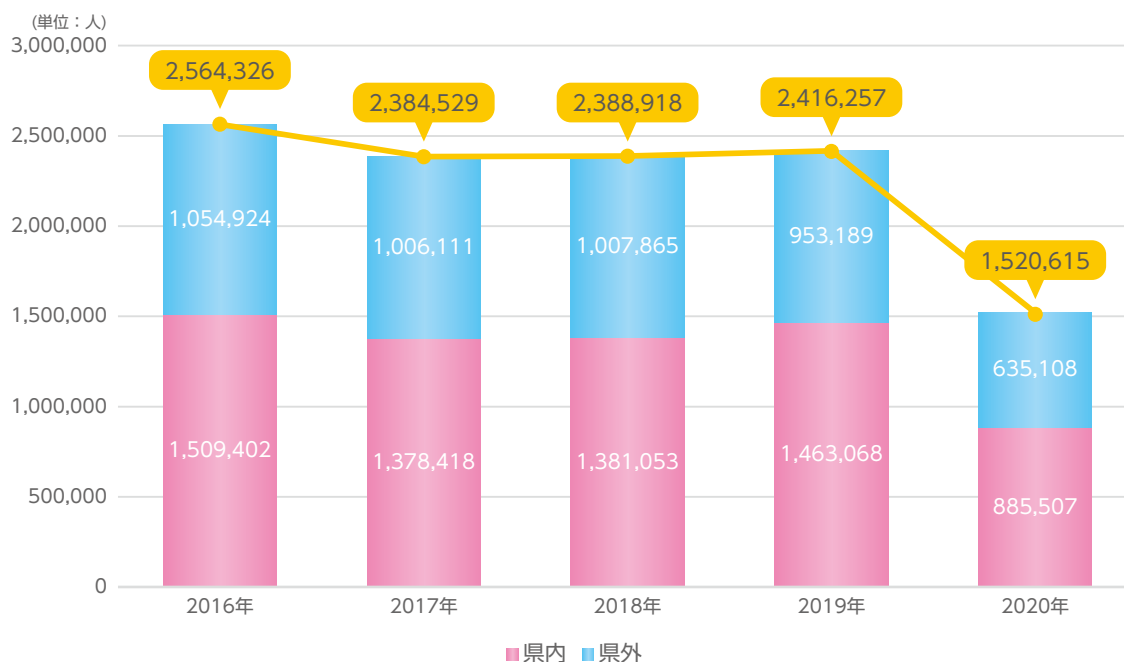


1 みどり市の観光動向

(1) 観光入込客数の推移（直近5年間）

本市の観光入込客数は、2016年の約257万人から概ね横ばいで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりイベントの中止や外出自粛の影響で2020年以降、大きく減少してしまいました。ウィズ・アフターコロナに対応したイベントの開催方法や、ワクチン接種率の上昇により回復傾向にはありますが、総合計画において掲げているKPI³（観光入込客数300万人）の達成は難しい状況となっています。

観光入込客数の推移／全地区（直近5年間）

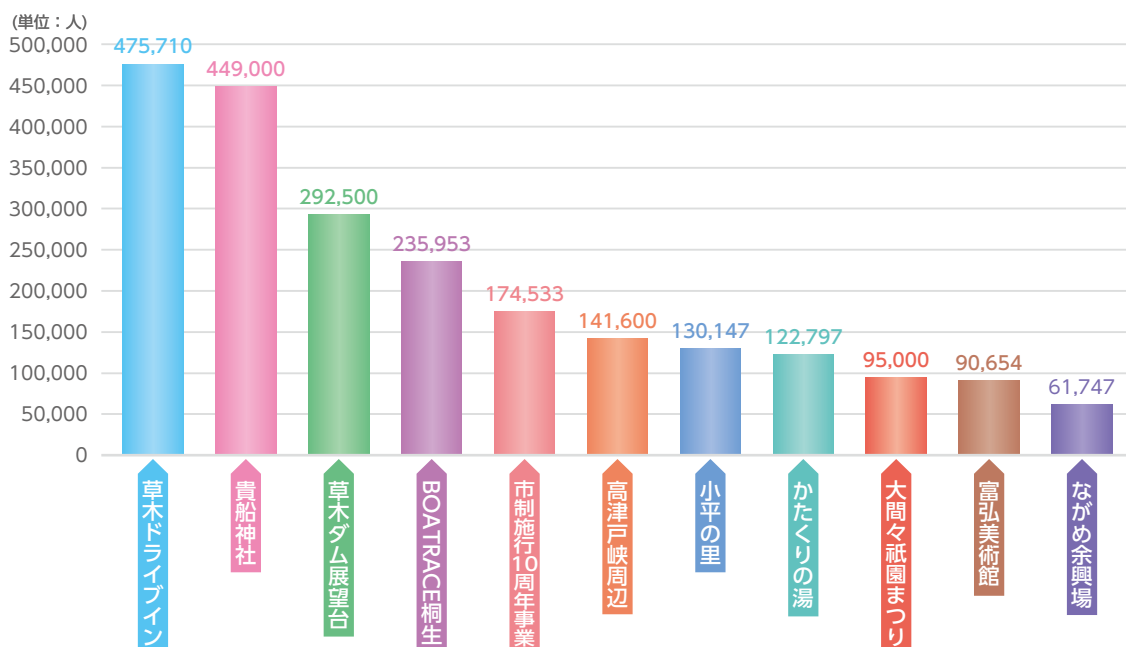


³ 目標達成に向けて事業がどの程度進捗しているのかが分かる指標。成果指標。

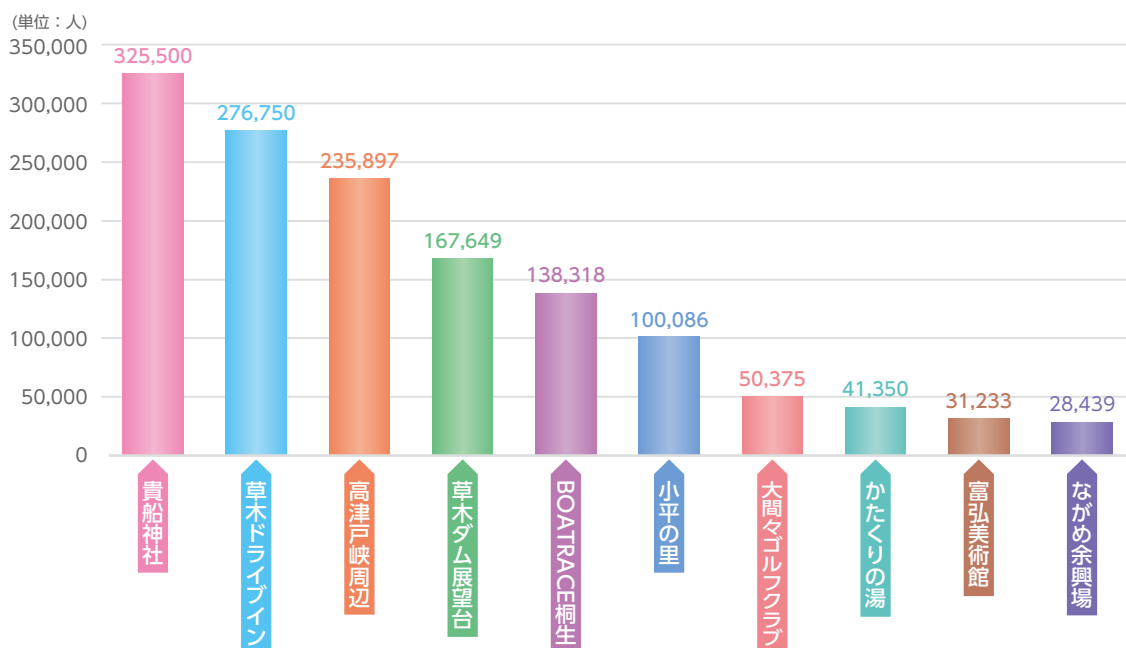
(2) 観光入込客数の推移／(2016年と2020年の比較)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年において市有施設の休館対応を実施したこと、全国的な外出自粛の影響などから施設の入込客数が大きく減少しました。

2016年の来訪者数上位10施設等



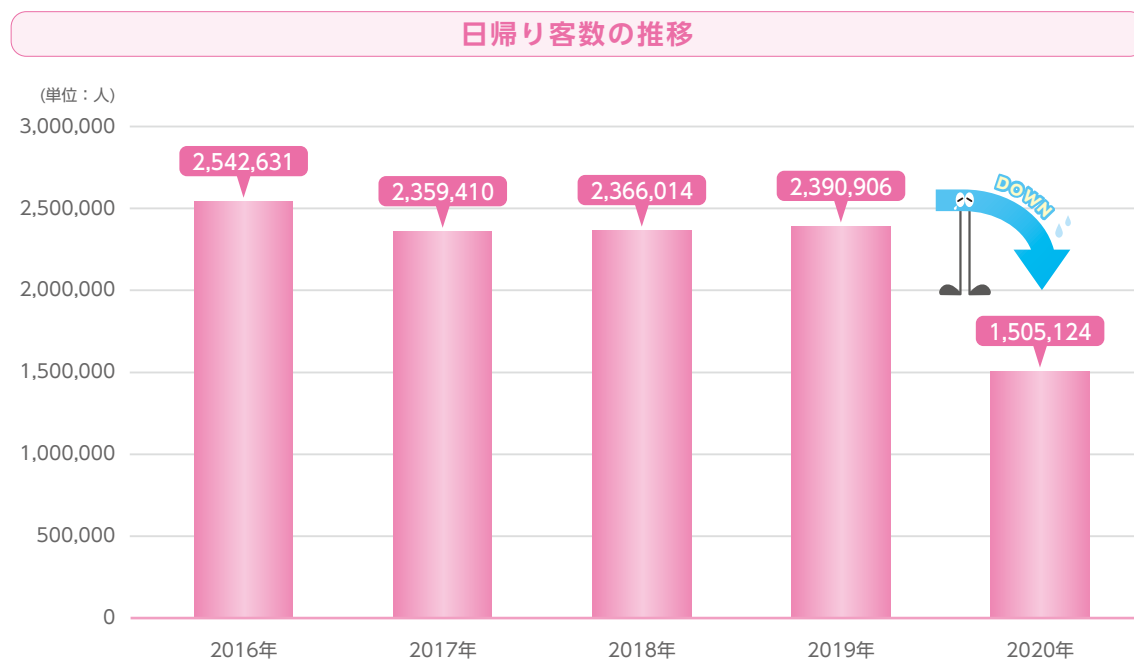
2020年の来訪者数上位10施設等



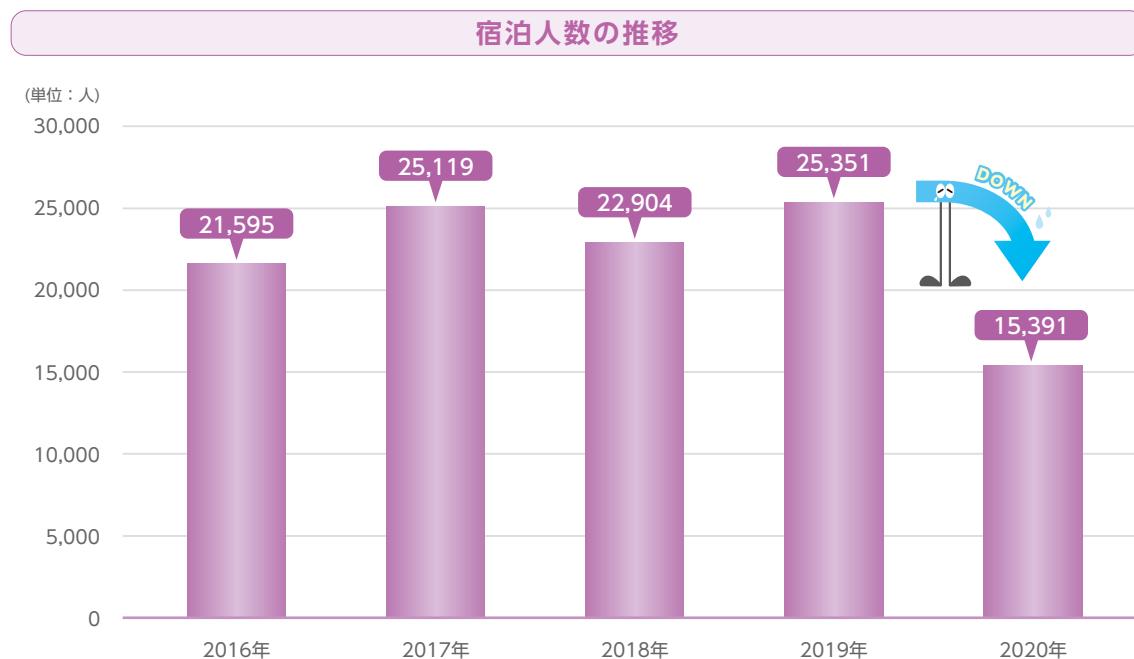
(3) 観光入込客数の推移／日帰り・宿泊別（直近5年間）

みどり市への観光客の約99%が日帰り客となっており、前計画策定時から現在に至るまでその割合に大きな変化はありません。

下記のグラフで見るとおり、日帰り客及び宿泊客ともに新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けています。



※日帰り客は、一定的な推移を維持していたが、2020年においてはコロナ禍により大幅な減少へと転じてしまった。

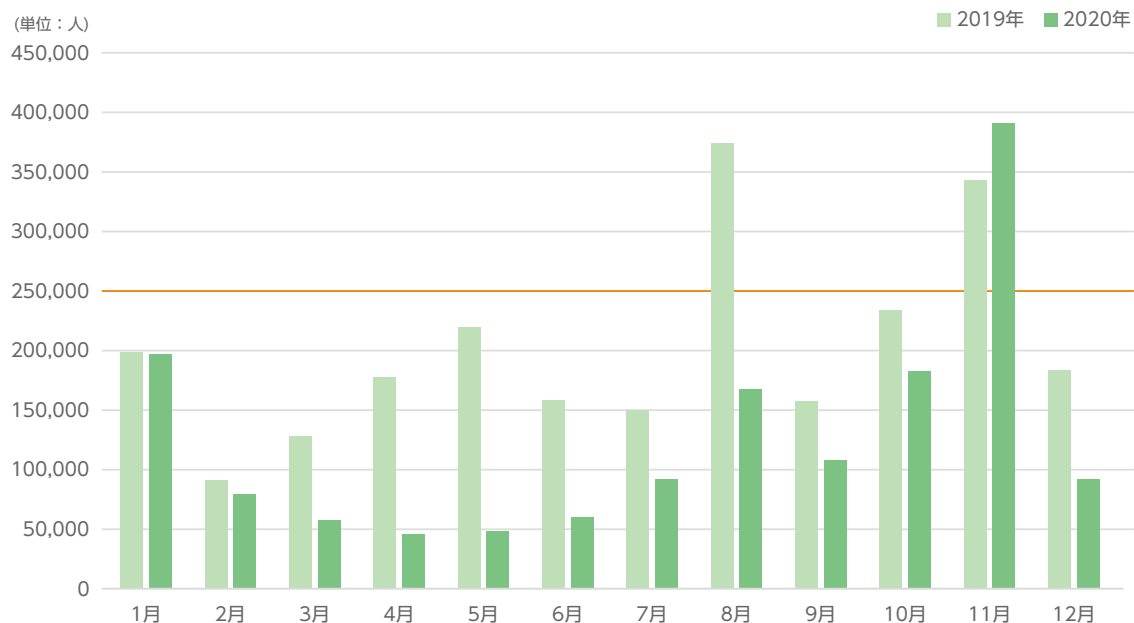


※宿泊者は、2018年から2019年にかけて回復傾向にあったが、2020年においてはコロナ禍により大幅な減少へと転じてしまった。

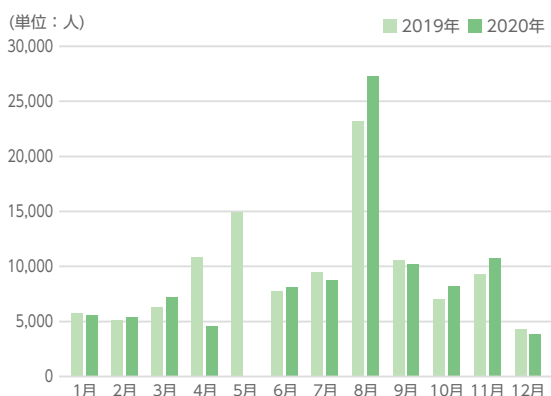
(4) 月別観光入込客数 / 主な市有施設

観光入込客数 300 万人を達成するためには、1 カ月あたり 25 万人が必要となります。
2019 年においては、25 万人を達成した月は、8 月と 11 月のみという状況となっています。

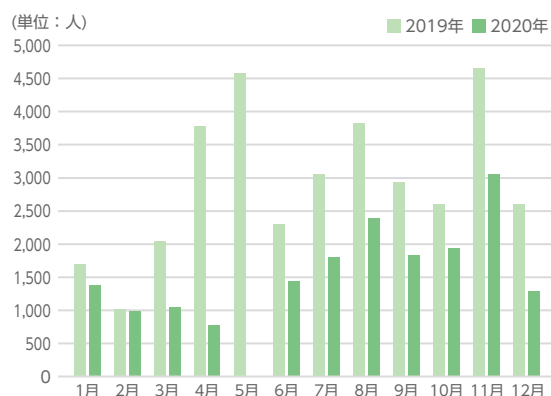
月別観光入込客数（2019年-2020年比較）



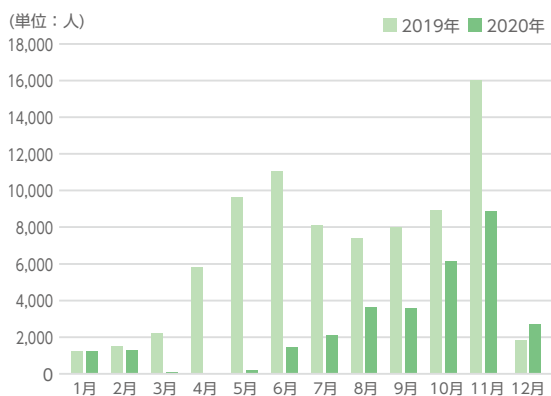
小平の里



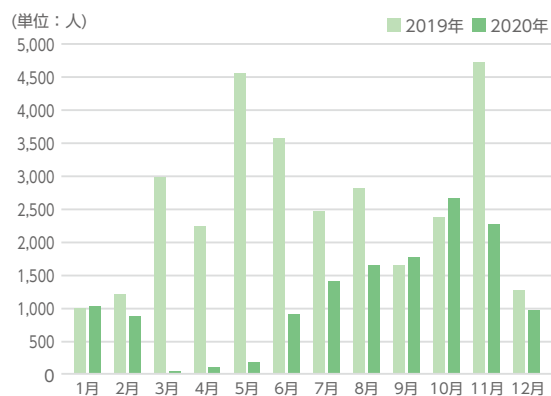
サンレイク草木



富弘美術館

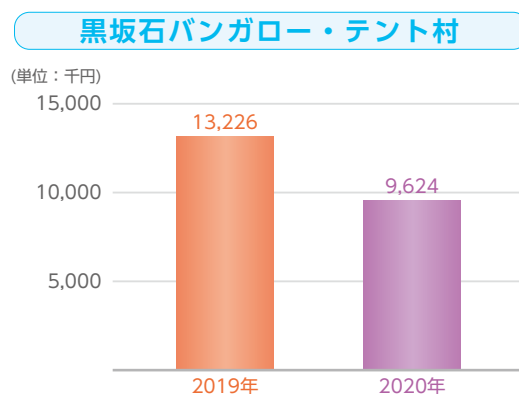
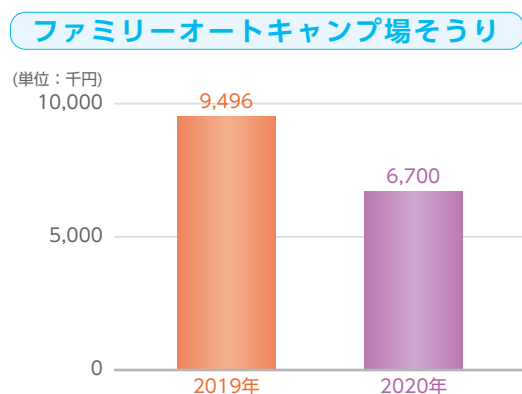
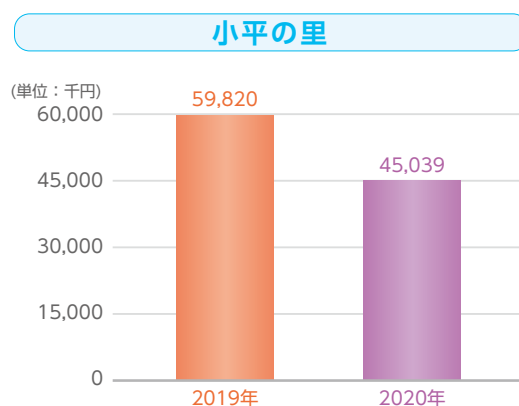
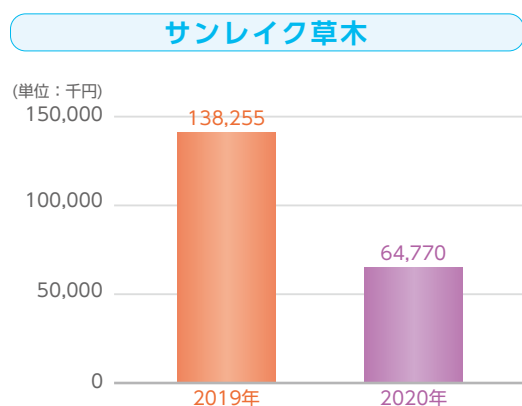


岩宿博物館



(5) 観光消費額／主な市有施設

総合計画においては、「公民連携による観光まちづくり」を施策の柱として地域経済の活性化を目指しますが、ほとんどの施設が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく入込客数及び消費額が減少しました。その中でも、アウトドア需要の高まりや団体旅行から個人旅行へのシフト等の理由から、キャンプ場施設については減少幅が小さい状況が見受けられました。



国民宿舎 サンレイク草木



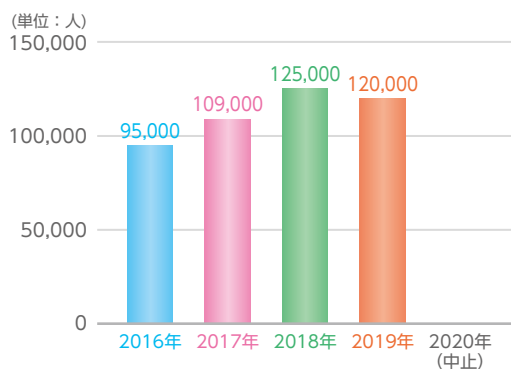
小平の里 キャンプ場

(6) 観光入込客数／市内イベント

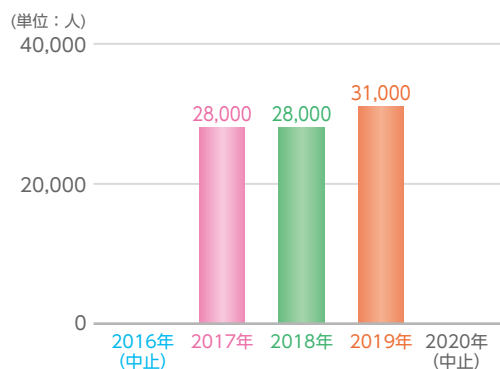
市内で行われるイベントについても、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けています。

2020年については、全てのイベントが中止となっており、今後はウィズコロナ、アフターコロナに対応したイベントの開催方法のあり方が求められます。

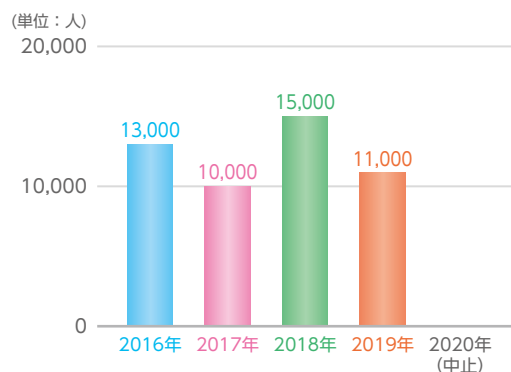
大間々祇園まつり



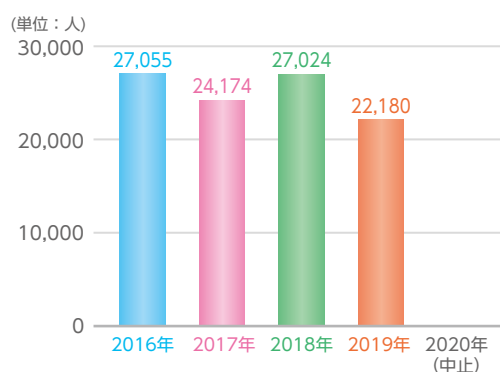
笠懸まつり



草木湖まつり



関東菊花大会



大間々祇園まつり



笠懸まつり

2 第1次みどり市観光振興計画の評価と総括

【総括】

第1次みどり市観光振興計画では、11項目の課題を掲げ、各種取り組みの具体的施策を6項目にまとめ、各施策を推進するための事業として38の企画例を掲げました。

その内、大間々駅前観光案内所やまちなか交流館などの施設整備、三方良しの会の活動による「大間々町中の再生と観光」、花桃プロジェクトチームによる「神戸駅周辺及び草木湖周辺花桃プロジェクト」、観光ガイドの会による活動や多言語音声観光アプリの導入による「観光ガイドの推進」、観光ポータルサイト（ホームページ）の導入やInstagram等SNS及びラジオや案内看板による「観光情報の発信」、電動自転車を導入した「レンタサイクルの充実」などに取り組み、一定の成果は上げることができました。

しかし前計画の課題として掲げられていました「観光地としての知名度向上」及び「観光振興に対する市民意識の向上等」については、行政のみでは効果的な取り組みに繋がらず、各種事業に関連するステークホルダー⁴との連携が必要であり、継続した課題となっている状況です。

これらのことから、第2次みどり市観光振興計画においては、前計画からの課題及び観光をとりまく環境の変化を踏まえた「本計画の柱」と「実効性のあるアクションプラン」により総合計画に掲げる「公民連携の観光まちづくり」の達成に向けた取り組みを進めます。

【具体的施策の評価】

●市内資源の再評価と活用の戦略構築

花桃プロジェクトによる花桃植樹の継続やコロナ禍で新たに個人旅行誘客強化事業（チカバケーション）による滞在型・体験型観光の取り組みを進めました。新たな特産品の開発は、今後の課題として取り組みを進める必要があります。



小夜戸・大畑花桃街道



「近場」×「バケーション」×「特別感」
チカバケーション
in みどり

⁴ ある目的に対して関わるすべての人たちのこと。必ずしも利害が一致するとは限らない。

●観光振興に対する市民意識の向上

人材発掘や「みどり市青年大学」の開校、大学との連携、観光推進団体の創設等、行政だけでは推進することができない企画例も多くあり、具体的な活動に繋げることができませんでした。今後は、教育分野と積極的に連携を図り郷土学習の充実を図る必要があります。

●観光振興テーマの確立

基本理念に掲げたみどり市の魅力を市内外にアピールするための具体的な取り組みとして、イベント時にチラシ等に記載するなど観光テーマの定着を図ってきましたが、集客に繋がるテーマの確立には至っていない状況です。

●情報発信の充実

観光ポータルサイトの制作や SNS を含めた各媒体での情報発信、みどり市観光ガイドの会によるガイド活動等を継続して推進することができました。

一方で、観光大使を活用した PR はやや不足する部分もあり、今後は観光大使の魅力を活かした事業展開も必要となります。



●観光地の整備

大間々駅前観光案内所やまちなか交流館の新設、低速電動バスの導入、観光バス駐車場の整備を進めてきました。

一方では、その施設の更なる有効活用についての取り組みを進める必要があります。

●二次交通の整備

観光地周遊タクシー等の充実には至っていない状況ですが、「電話でバス」⁵の利便性は徐々に高まっています。

レンタサイクル用自転車の導入活用の取り組みでは、その運用や周知・PRを進め、利用者の利便性を図る必要があります。二次交通対策については、今後、様々な視点での対応を検討する必要があります。

⁵ 乗車希望時間と乗車区間を電話で予約して利用する、笠懸・大間々エリアの乗合バス。Web での予約も可能。

3 観光をとりまく環境変化への対応

第1次みどり市観光振興計画の策定以降、みどり市を取り巻く環境も大きく変化していることから以下の項目を踏まえ、取り組みを進めていきます。

【SDGs】⁶

近年注目が高まり国際社会共通の目標である SDGs ですが、日本では国民の理解や関心はまだ低い状況にあります。今後は、意識の高まりと共に、目標達成に向けた取り組みや配慮した商品、サービス向上等が必要になります。そういった点を踏まえた観光施策に取り組むことは、地方自治体としての責務でもあり、みどり市の魅力・価値を高めることにもつなげるため、各種観光施策の実施に取り入れていきます。

【DX】⁷

スマートフォンの普及や旅行の個人化が進み、観光客の情報取得手段も変化してきています。これまでのパンフレットを片手に観光をするスタイルではなく、スマートフォンを片手に Web サイト上で必要な情報を調べながら観光をするスタイルに変化しています。DX の視点から、新たな観光関連指標抽出の検討やそれを活用し情報を受け取る側のニーズを考慮した施策の構築を進めます。

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）】

2020 年以降、世界的に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、地域経済に大きな影響を与えています。いわゆる三密を避ける新しい生活様式が定着し、観光客が求めるものも変化が生じています。また、感染状況の改善が見られない中で今後は、ウィズ・コロナの視点を含めニューノーマル⁸に対応した観光スタイルの提案を進めます。

【インバウンド】⁹

2019 年の訪日外国人旅行者数は、ビジット・ジャパン・キャンペーンを開始した 2003 年から 6 倍増となる 3,188 万人となりました。2020 年以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受け壊滅的な状況となっていますが、2025 年には大阪万博の開催も予定されており、インバウンド市場の回復が見込まれるため、継続して誘客の取り組みを進めます。

⁶ Sustainable Development Goals。2015 年 9 月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2030 年までの具体的指針のこと。

⁷ Digital Transformation。行政における DX とは、デジタル技術を手段として活用したサービス改革。

⁸ 社会に大きな変化が起こり、変化が起こる以前とは違う新しい常識が定着すること。

⁹ 訪日外国人旅行者。また、旅行そのもののこと。

持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



目標1【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる



目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養の改善を実現し、
持続可能な農業を促進する



目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4【教育】

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い
教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワーメントを行う



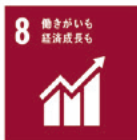
目標6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する



目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する



目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての
人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標9【インフラ、産業化、イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る



目標10【不平等】

国内及び各国間間の不平等を是正する



目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12【持続可能な消費と生産】

持続可能な消費生産形態を確保する



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる



目標14【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を
保全し、持続可能な形で利用する



目標15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利
用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠
化への対処ならびに土地の劣化の阻止・
回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提
供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責
任のある包摂的な制度を構築する



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を
強化し、グローバル・パートナーシップを
活性化する

1 計画の体系



2 計画の進行管理手法

次章で定めるアクションプランにおける成果指標の達成状況や第2次みどり市観光振興計画の進捗状況については、第2次みどり市観光振興計画策定委員会の委員により管理・検証を定期的に実施することとします。





①産学官連携によるまちづくり	
(1) リノベーションまちづくり	17
(2) 大学等と連携した観光まちづくり	18
②魅力ある特産品の開発	
(1) 特産品創出事業	19
Column ①	19
③観光ニーズの変化への対応強化	
(1) みどり市観光協会による観光推進	20
④ながめ公園の活性化	
(1) ながめ公園通年利用プロジェクト	21
⑤次世代へつなぐみどり市の「まつり」	
(1) まつりのリニューアル	22
⑥滞在型観光の推進	
(1) 草木湖周辺の活性化	23
(2) 観光資源の連携	24
⑦シビックプライドの醸成	
(1) みんなが主役の「市民会議」.....	25
Column ②	25
(2) みどり市探検隊	26
Column ③	26
⑧広域観光の推進	
(1) 周辺自治体との連携事業	27

1 産学官連携によるまちづくり

(1) リノベーションまちづくり⁹

関連するSDGsの目標



趣 旨

「観光」という言葉にとらわれることなく、遊休不動産に新たな価値を民間主導で常に創出させ続けることにより、人口減少に伴う地域課題の解決や、交流人口の増加に伴う地場産業の活性化を図り、市内全体で「稼ぐ力」をつけるとともに、「まちの魅力」を向上させます。

取組内容

民間主導によるまちづくり、地域づくりの発想により地域の課題を解決するビジネスを始める起業希望者と、遊休不動産の所有者をマッチングし、民間事業の力で、暮らしのコンテンツを充実させまちの魅力を向上させていくため、以下の事業を実施します。

- 都市課題解析
- 講演会
- 家守塾¹⁰
- リノベーションスクール¹¹

ステークホルダー

- 遊休不動産のオーナー
- みどり市観光協会
- 民間事業者（創業者含む）
- みどり市

KPI（成果指標）

- 遊休不動産の利活用件数
- 市街地内の遊休空間を活用した社会実験・イベントの実施件数

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
家守塾	■				
リノベーションスクール		■			
新たな実践者の台頭				■	

⁹ リノベーションまちづくりは、今ある資産を活用して自治体の都市・地域経営課題を解決していくこと。ここでいう「今ある資産」とは遊休不動産などの空間資源にとどまらず人的資源や歴史的資源も含んでいます。

¹⁰ 家守塾は、家守会社（民間の力でお金を稼げながらまちづくりを行う団体をいう。）の設立を促すための取り組み。

¹¹ リノベーションスクールは、まちなかに実在する遊休不動産（空き家、空き店舗、空きビル、空き地、使われていない公共空間など）を対象とし、エリア再生のためのビジネスプランを創り出す短期集中型の実践型スクールのこと。

(2) 大学等と連携した観光まちづくり

関連する SDGs の目標



趣 旨

多様化する行政課題について、官学連携による解決を目指します。

取組内容

大学等との連携により、新たに過疎地域に指定された大間々町等において、行政が設置管理する施設の有効活用や地域の新たな資源の発掘等により観光誘客を図ります。

- 観光マップの作成
- 新たな体験プランの創出 など

ステークホルダー

- 大学等
- 施設管理者（指定管理者等）
- みどり市
- 市民
- みどり市観光協会

KPI（成果指標）

- 大学等との連携・活動数

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
大学等との連携	■				
持続可能な事業検証		---	---	---	---



2 魅力ある特産品の開発

(1) 特産品創出事業

関連するSDGsの目標



趣 旨

地場産業の活性化を図り、市内全体で「稼ぐ力」をつけるとともに、「まちの魅力」を向上させます。

取組内容

市内事業者等において新たな特産品の開発、既存商品の改良及び販売戦略を構築できるよう、外部専門家による指導等を取り入れ、魅力的な商品開発の促進を図ります。
更に開発した商品はふるさと納税の返礼品として取り扱うなどの展開にもつなげます。

ステークホルダー

- 市内事業者
- みどり市観光協会
- 外部専門家（商品開発関連）
- みどり市商工会
- 笠懸町商工会
- みどり市

KPI（成果指標）

- 特産品の開発数
- 魅力的な特産品が増えたと感じる市民の割合

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
第2期講座					
第3期講座					
第4期講座以降					

コラム ①



左記写真は、アクションプランについて、グループに分かれ熱のこもった検討を行っていただいた後のプラン発表の一枚です。このとき御提案いただいたプランは「生活食復活プロジェクト」といったものでした。

このプランは、新しい「食」をつくるのではなく、昔からある「食」に注目して、ストーリー性を重視し、みどり市に来なければ食べられないものを見つけてみては？というもので昔食べた食生活という中では「ぎゅうてん」、「子供洋食」、「すいとん」などの名称が次々と。そうした中、別のグループから大間々祇園まつりでは「なまりの煮付け」を提供したことがあるという意見も。コロナ禍により近年では提供していないとのことでしたが、こうした食文化が復活し、「生活食復活プロジェクト」につながって行くことになります。

3 観光ニーズの変化への対応強化

(1) みどり市観光協会による観光推進

関連する SDGs の目標



趣 旨

環境の変化に柔軟に対応し、新たな施策に取り組むため「みどり市観光協会」を立ち上げ、観光振興の担手として観光で稼げるまちを目指します。

取組内容

- 協会による新たな施策等の実施
- 専門人材の育成（将来的な自走のため）

ステークホルダー

- みどり市観光協会
- 地域で活躍するまちづくりプレイヤー
- みどり市
- みどり市商工会
- 笠懸町商工会

KPI（成果指標）

- 自主事業の実施数
- 自主事業における売上高

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
人材育成	[Solid blue bar]				
新たな施策等	[Dashed blue bar]				
DMO ¹² 検討	[Dashed blue bar]				

図：観光地域づくりにおける多様な主体の連携のイメージ



出典：観光庁「観光地域づくり人材育成実践ハンドブック 2015」

¹²DMO（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）の略で、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

4 ながめ公園の活性化

(1) ながめ公園通年利用プロジェクト

関連する SDGs の目標

8

働きがいも
経済成長も



9

産業と技術革新の
集積をつくらう



趣 旨

ながめ公園の利用については「関東菊花大会」が開催される秋口の利用が主となっている状況に鑑み、年間を通して、ながめ余興場、ながめ公園等を一体的に活用することで市民等の憩いの場としての利活用を図り、新たな魅力を創出します。

取組内容

- PPP/PFI¹³による公園の魅力の向上
- 全国芝居小屋会議の招致

ステークホルダー

- 民間事業者
- ながめ菊華会
- 特定非営利法人ながめ黒子の会
- みどり市

KPI (成果指標)

- 社会実験の回数
- 提案事業者数

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
社会実験	■				
民間の活力の創出		-----	-----	-----	-----
招致準備	■	■	■		
芝居小屋会議招致			■	■	■



¹³ 公民が連携して公共サービスの提供を行う枠組みを PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）と呼びます。PPP の中には、PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営（DBO）方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれ、PFI は、PPP の代表的な手法の一つで、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用する手法です。

5 次世代へつなぐみどり市の「まつり」

(1) まつりのリニューアル

関連する SDGs の目標



趣 旨

これまで8月に集中的に行われていたみどり市の夏まつりについて、ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるニューノーマルへの対応を図り、開催時期を含めてリニューアルすることにより、各まつりの特徴を生かして魅力あるまつりを開催する。

取組内容

持続可能なコミュニティの形成等を目指します。

- 開催内容の協議
- 実施体制の検討
- 400年祭の協議（大間々祇園まつり）

ステークホルダー

- 大間々祇園まつり実行委員会
- 草木湖まつり実行委員会
- 笠懸まつり実行委員会
- みどり市商工会
- 笠懸町商工会
- 市民
- みどり市観光協会
- みどり市

KPI（成果指標）

- 各まつりの来場者数

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
開催内容の協議					
実施体制の検討					
400年祭の協議					



6 滞在型観光の推進

(1) 草木湖周辺の活性化

関連するSDGsの目標



趣 旨

施設の老朽化が進んでいる滞在型宿泊施設（国民宿舎サンレイク草木）を再建し、草木湖周辺の活性化により滞在型観光を推進させるとともに、民間事業者との連携を図ることで市内全域の活性化を図ります。

取組内容

- 滞在型宿泊施設（国民宿舎サンレイク草木）の再建
- 周辺施設等との連携
- 活性化コンテンツの企画・実施

ステークホルダー

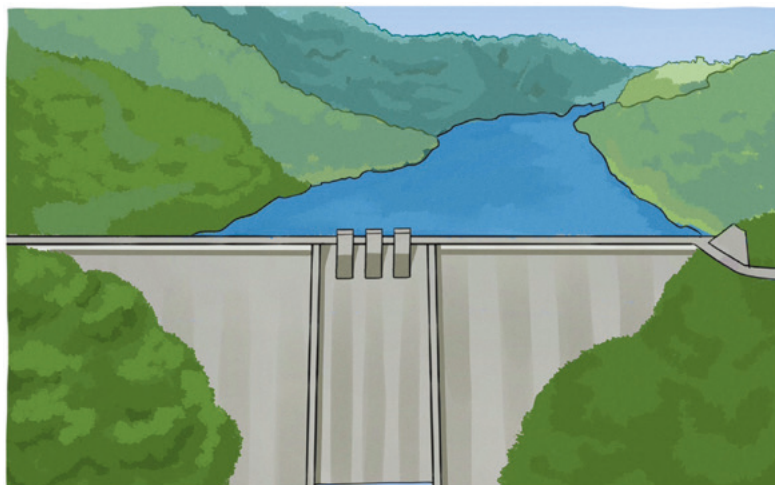
- 受注事業者（設計事業者、建設事業者、指定管理者等）
- みどり市観光協会
- 東町地域ビジョン策定委員会関連団体
- みどり市
- 独立行政法人水資源機構草木ダム管理所

KPI（成果指標）

- 魅力ある施設であると感じる人の割合

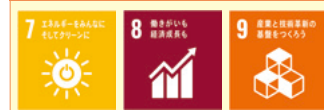
時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
基本設計・実施設計	■				
改修等工事		■			
周辺連携					



(2) 観光資源の連携

関連する SDGs の目標



趣 旨

一つのコンテンツでは、集客効果、滞在時間の長時間化が図られないことから、市内に点在する市有施設等との連携を図り、滞在型観光の推進を図る。

取組内容

- 小平の里と浅原体験村との連携プランの創出・実施
- かつての宿場町・市場町の魅力強化（沢入、花輪、桐原、大間々）
- 文化財（岩宿遺跡、西鹿田中島遺跡など）との連携

ステークホルダー

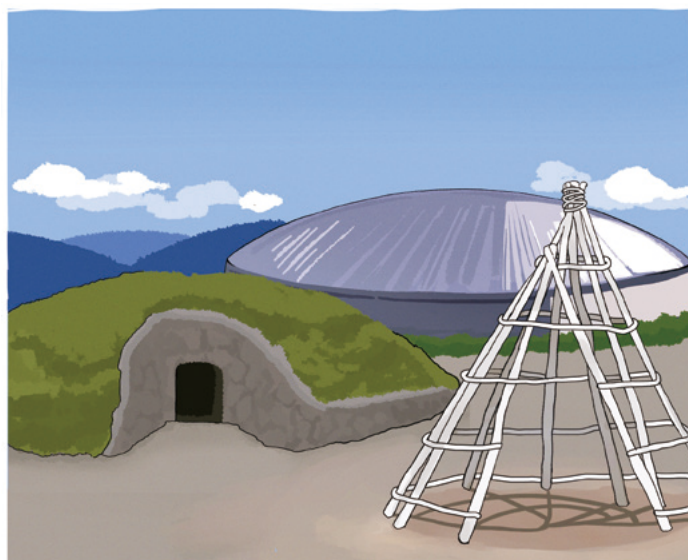
- 指定管理者等の事業者
- みどり市観光協会
- みどり市

KPI（成果指標）

- 連携プランの造成

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
定例会議等の実施	→				
連携プランの造成		→			
プラン検証		→			



7 シビックプライドの醸成

(1) みんなが主役の「市民会議」¹⁴

関連するSDGsの目標



趣 旨

市民が主体で開催する市民会議を開催することで、みどり市民であることの当事者意識の醸成を図ります。

市民会議を通じてかるたを制作することでみどり市を深く知り、当事者となることでシビックプライドの醸成を図ります。また、市民会議によりかるたプロジェクトとは別の新たなプランの創出等も期待しています。

取組内容

プロジェクトを立ち上げる過程から、市民参加型によるプロジェクト推進を目指します。

- かるたプロジェクトの検討
- 新たなプロジェクトの創出

ステークホルダー

- 市民
- 市内小中学校等
- みどり市観光協会
- みどり市

KPI (成果指標)

- 愛着を持つ市民の割合

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
市民会議実施					
かるたの制作					
かるたの普及					
新たなプロジェクト					

コラム ②

前計画の課題として掲げられました「観光振興に対する市民意識の向上等」については継続した課題ということもあり難しいテーマでしたが、各委員からの様々な提案や意見を踏まえ、アクションプランへの落とし込み方について多くの議論を重ねた分野となりました。

例えば「みどり市×他自体の教育連携」、「まち・地域留学の実施」、「市内学校交換体験」といったプランからヒントを得て、「市民にとっても楽しいみどり市を知って欲しい!」という思いから「みどり市探検隊」というプランができあがっています。

¹⁴ 行政が主導で開催するものではなく、自発的に集まった方がまちづくり等について自由に意見を出し合い、自らが当事者となって具体的な取り組みを行う場所です。

(2) みどり市探検隊

関連する SDGs の目標



趣 旨

みどり市の様々な地域資源について、自らが観光・交流体験をすることにより、深く知る市民の増加を目指します。市民が楽しむことにより、市外への波及効果を目指します。

取組内容

- 市民向けのみどり市満喫ツアープランの造成
- みどり市版「聞き書き甲子園¹⁵⁾」の検討

ステークホルダー

- 市民
- みどり市観光協会
- みどり市

KPI (成果指標)

- 参加者数

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
プラン造成	■				
プラン実施		■■■■			
聞き書き甲子園検討会議・開催	■■		■■■■■		

コラム ③

「みどりみらいツーリズム」、これは大間々高等学校の生徒の提案で「旅行サブスク」というものであり、令和5年2月21日に開催された「第2回高校生まちづくりコンテスト」の決勝大会に進出し、全国177チームの中から、見事、最高賞である「観光庁長官賞」を受賞したプランです。

- これは、繰り返し訪れてもらうために月々ワンコインから積み立てできる4コースを設定した旅行サブスクモデルになっています。
- なんとこの提案は、既に民間企業からのオファーの声も聞こえているということです、未来の担い手の活躍が嬉しい限りです。
- 当市においても大間々高等学校との連携を強化し、更には市民の皆さんを交えた連携、交流を図ることにより「アカルイミライ」が見えてきました！

¹⁵⁾ 聞き書き甲子園は、聞き書き甲子園実行委員会等が主催する事業で、日本全国の高校生が森や海・川の名手・名人を訪ね、知恵や技術、人生そのものを「聞き書き」し、記録する活動です。

8 広域観光の推進

関連する SDGs の目標



(1) 周辺自治体との連携事業

趣 旨

わたらせ渓谷鐵道沿線の桐生市及び栃木県日光市といった周辺自治体や県内自治体等と連携を強化し、周遊観光の強化を図ります。

取組内容

- モニターツアーの実施
- 赤城山サイクルツーリズム事業
- 広域的な観光PR
- 二次交通の検討

ステークホルダー

- わたらせ渓谷鐵道
- みどり市観光協会
- みどり市
- 周辺自治体等
- 交通関連事業者

KPI (成果指標)

- 周辺自治体と連携したプラン造成数
- サイクルツーリズムの参加者数

時 期

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
モニターツアー					
広域的観光PR					
サイクルツーリズム					
二次交通の検討					





1. 策定委員会名簿

所属等	氏名	備考
高崎経済大学	片岡 美喜	委員長
みどり市観光大使	富所 哲平	副委員長
大間々高等学校	高橋 みゆき	
みどり市観光物産協会	木戸 英价	
みどり市観光ガイドの会	渡辺 正美	
わたらせ渓谷鐵道株式会社	品川 知一	
赤城観光自動車株式会社	木村 茂光	
株式会社沼田屋タクシー	下山 利和	
みどり市商工会	新井 清	
笠懸町商工会	石埜 茂	
新田みどり農業協同組合	池崎 茂	
大間々旅館組合	柴崎 明	
大間々林業研究会	阿久津 直司	
群馬県地域創生部地域創生課	片山 翔平	
地域おこし協力隊	獅子内 珠羅	
みどり市産業観光部長	深沢 隆之	

2. 策定の経過

実施 / 期間	実施内容
令和3年7月8日(木)	○委嘱式 ○第1回みどり市観光振興計画策定委員会
令和3年8月25日(水)	○第2回みどり市観光振興計画策定委員会
令和3年10月21日(木)	○第3回みどり市観光振興計画策定委員会
令和4年1月28日(金)	○第4回みどり市観光振興計画策定委員会
令和4年6月30日(木)	○第5回みどり市観光振興計画策定委員会
令和4年7月28日(木)	○第6回みどり市観光振興計画策定委員会
令和4年11月28日(月)～ 12月27日(火)	パブリックコメント実施
令和5年1月19日(木)	○第7回みどり市観光振興計画策定委員会

第2次みどり市観光振興計画

発 行／群馬県みどり市

発行日／2023年3月